

1歳の子供がアパートの2階の手すりを乗り越え約5m下に転落し、足の打撲や内臓損傷の疑いなどで4日間、入院した。部屋に家族はいたが、下からの泣き声で初めて気付いた。窓の鍵はかけておらず、窓と網戸が開いており、防止柵の前の本棚から上ることができた。今後できる対策は。

(30歳代女性)

気温が上がり、窓を開けたり、ベランダに出たりする機会が増える時期です。相談者のように、子供が窓枠やベランダの手すりを乗り越えたり、網戸やベランダのパネルが外れたりして転落するケースが多く見られます。手すりの下や、格子の間隙からすり抜けて落ちる場合もあります。

年齢別に、危険の認知度が低い1～3歳児には注意が必要です。生命に危険を及ぼす可能性が高い転落事故を防ぐため、保護者の方は次の点に注意しましょう。

まず、子供の行動や居場所を把握して見守りましょう。開いている窓やベランダの出入り口に1人で近寄らせてはいけません。ベランダを遊び場にせず、子供だけを残しての外出も避けましょう。理解できる年齢の子供には、転落の危険性をわかりやすく教えることも大切です。

子供の発達に応じ、日頃から転落を未然に防ぐ環境を整えましょう。窓やベランダの出入り口への施錠を習慣付け、子供の手が届かない場所に補助錠やストッパーをつけることも有効です。ベランダには、足掛かりとなる家具や物は置かないようにしましょう。

最後に、窓やベランダの手すり、網戸などは定期的に点検しましょう。手すりがたつきや腐食、網戸の破れなどはないか。窓のサッシが外れていたり、鍵が破損したりしていないかにも、注意が必要です。